

この講演では二つの点につき述べる。第一は中東における考古学と年代学のかかわりに関する総説、第二はメソポタミア最古の土器の年代をめぐる最新の知見についてである。

中東（西アジア）考古学と放射性炭素年代測定とは、後者の手法開発当初から密接に関わってきた。1940年代、W.F.リビーが手法の有効性を試験した際には年代既知の試料としてエジプト・プトレマイオス朝ミイラの棺木片が用いられている(Arnold and Libby 1949)。また測定年代の年輪較正が実用化し始めた1970年代初頭には、その成果をいち早くとりいれた中東・ヨーロッパ間の考古学的編年のすりあわせがC. レンフルーによってなされているし(Renfrew 1973)、1980年代半ばには較正年代が可能な時期については基本的に較正年代を採用するという中東考古学者間の合意がなされてもいる(Aurenche et al. 1987)。

中東の考古学者の間で年代学への関心が他地域より早く深まったのは、この地域の考古学研究史が長かったため相対編年が早くに定まっておき年代測定結果との照合が必須であったことや、世界のどこよりも古く歴史時代が始まっていたため文字資料による編年と実年代の比較が欠かせなかったことなどが理由なのであろう。しかし、早くから放射性炭素年代、較正年代の使用が一般化したとはいえ、現在、考古学的な編年が完全に確立しているというわけではない。新発見がなおもあいついでいること、またあいつづ政情不安のため地域（国）によっては信頼できる年代データが得られていないことなどにより、編年にはなお検討の余地を残す箇所が少なくない。

そうした例として北メソポタミア最古の土器とその年代について述べる。メソポタミアの本場はイラクであるが、周知のように1980年代以降戦乱の続くイラクでは新知見が乏しい。最古の土器の年代についても1970年代までの測定値しか得られていない。現在当地で最古とされる土器はプロト・ハッスーナ式土器である。この土器をともなう遺跡はかなり多く知られており、この時期にメソポタミア平原の本格開発が始まったと考えられている。しかし測定年代値は少なく、まとまった年代は東京大学調査隊が発掘したテル・サラサートでしか得られていない。1960年代には7360 \pm 100 BP (TK-23)、7520 \pm 120 BP (TK-24)、1970年代には7800 \pm 80 (TK-198)という測定値が報じられている(Matsutani 1991)。年代はかなりばらついてはいる。にもかかわらず、その最も古い値が採用され、メソポタミアでは8000BP (ca. 6900 cal. BC) 以後まもなくして土器の使用が始まったと説明されているのが現状である(Matthews 2000 など)。それは、戦禍がおよんでいないその西側シリア領で近年、調査が進展し8000BP 近くにまで遡る土器が発見されていることと無関係とは思われない。地域間伝播による傾斜編年よりも相互作用による並立編年を採用しがちな最近の風潮にしたがい、イラク領メソポタミアでもシリア領とほぼ同じ頃、土器が使用され始めたに違いないという暗黙の了解があるように見受けられる。

現在、筆者らが進めているイラク国境に近いシリア領メソポタミア、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡で、この問題に関する新知見が得られた。この遺跡では従来最古とされたプロト・ハッスーナ式土器出土

層の下層から、型式学的に古い新種の土器群が見つかった。同一層出土炭化物 10 点にもとづき東京大学放射年代測定室で年代を測定したところ 6900-6600 cal. BC 頃と推定された(Nishiaki and Le Mière 2004)。これは従来プロト・ハッスーナ式土器に対して与えられていた年代に等しい。そこで、東京大学に保管されていたテル・サラサート遺跡、ならびに同種の遺跡であるシリア領テル・カシュカショクのプロト・ハッスーナ式土器にともなう炭化物をそれぞれ 4 点と 5 点、再測定したところ ca. 6600-6300 cal. BC というまとまった年代が得られた。今回の測定結果は全ての標本を通じて一貫している点、信頼度が高いようにみえる。すなわち、プロト・ハッスーナ式土器はメソポタミア最古の土器ではなく、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡で検出された新種土器に後続する可能性がきわめて高い。

この結果はイラク領メソポタミアにおける土器の起源さらにはメソポタミア平原開発史そのものにつき新たな問題を提起している。すなわち、テル・セクル・アル・アヘイマル式土器がシリア領で用いられていた時期のイラクの状況についてである。イラクでは単にテル・セクル・アル・アヘイマル式土器が未発見なのか、あるいは見過ごされてきたのか。それとも、その時期のイラク領では居住の本格開発が始まっていなかったのか。テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡ではテル・セクル・アル・アヘイマル式土器の時期とプロト・ハッスーナ式土器の時期では生業などに大きな変化のあったことが判明している。いずれの時期にメソポタミアの本格開発が始まったのかを定めることは、その背後にある要因を考古学的に特定するうえで欠かせないからイラク領既存資料の再検討が必須である。

引用文献

- Arnold, J. R. and W. F. Libby (1949) Age determinations by radiocarbon content: checks with samples of known age. *Science* 110: 678-680.
- Aurenche, O., J. Evin and F. Hours (eds.) (1987) *Chronologies in the Near East: Relative Chronologies and Absolute Chronology, 16000-14000 BP*. Oxford: BAR Publications.
- Renfrew, C. (1973) *Before Civilization: The Radiocarbon Revolution and Prehistoric Europe*. London: Jonathan Cape.
- Matsutani, T. (1991) Radiocarbon dating. In: *Tell Kishkashok, the Excavations at Tell No. II*, edited by T. Matsutani, p. 96 Tokyo: University of Tokyo Press.
- Matthews, R. (2000) The Early Prehistory of Mesopotamia, 500,000 to 4,500bc. *Subartu V*. Turnhout: Brepols.
- Nishiaki, Y. and M. Le Mière (2004) Excavations at Tell Seker al-Aheimar and the transition from the Pre-Pottery to the Pottery Neolithic in the Khabur basin, Syria. Paper presented at *The Fourth International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Berlin, 29th March – 3rd April.

Recent progress in radiocarbon dating for the prehistoric archaeology of Upper Mesopotamia

Yoshihiro Nishiaki

The University Museum,

The University of Tokyo

nishiaki@um.u-tokyo.ac.jp

Following a brief review of the history of applications of radiocarbon dating technology to the Middle Eastern archaeology in general, this paper addresses new data for the oldest pottery of Upper Mesopotamia. Proto-Hassuna pottery is generally thought to represent the oldest Pottery Neolithic entity of Upper Mesopotamia, starting from around 6900 cal. BC. However, the ongoing excavations at the Neolithic site of Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria, yielded a new group of pottery assemblages clearly preceding the Proto-Hassuna, with radiocarbon dates indicating its use for a period of ca. 6900-6600 cal. BC. The dates are in fact those previously assigned to the Proto-Hassuna, which raise a serious question to the current consensus in the literature. Then charcoal samples from the Proto-Hassuna sites of Telul eth-Thalathat (Iraq) and Tell Kashkashok (Syria), kept at the University of Tokyo Museum, were sent for laboratory analysis, which resulted in producing dates covering a period of ca. 6600-6300 cal. BC. These new dates lead to revision of the chronology of the oldest phases of Pottery Neolithic in Upper Mesopotamia: the phase defined at Tell Seker al-Aheimar, instead of the Proto-Hassuna, should be now considered the oldest Pottery Neolithic in this region.